広島大学大学院医系科学研究科広報誌　第８号

HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences

目　次

Preface　巻頭言
「研究科長からのお願い」…… 丸山　博文　1
Greetings　ご挨拶
「教授就任のご挨拶」…… 三上　幸夫　2
「就任のご挨拶」…… 岡　志郎　2
Topics　霞クラウドファンディング
「「被爆者スライド標本データベース」を公開しました」
…… 杉原　清香　3
My Motto 座右の銘
「ほんまかいな。なんでやねん？おもろいな。」
…… 木内　良明　4
「おかげさま」…… 小池　透　4
Excellent Paper　すぐれた論文
「筋萎縮性側索硬化症患者の筋肉内神経束にTDP43が蓄積している」
…… 丸山　博文　5
Research Frontline　研究最前線
「有機化学を基盤とする基礎研究から医療への貢献を目指して」
…… 熊本　卓哉　6
「開発途上国における女性と助産師を繋ぐアプリの開発」
…… 新福　洋子　7
Air Mail　広大から海外へ留学している若手からの便り
「バーゼル大学留学便り」…… 野田　祐子　8
編集後記…… 加来　真人　8

研究科長からのお願い

大学院医系科学研究科長　丸山　博文

COVID-19は依然として猛威をふるい、収束の目処が全く立っていません。第7波では霞キャンパスでも感染者が続出し、通常業務や研究体制の維持に汲々としている状態かと思います。感染力が強いので完全な予防は不可能ですが、換気を心がけながら引き続き感染対策をお願いします。

研究力強化の取り組みとしてこれまで取り上げてきたように、「霞動物実験施設の増築」、「広大霞LabSecretary」、「疾患バイオマテリアル・レポジトリーシステムの整備」が重要と考えています。霞動物実験施設の増築部分は姿を見せ実感が湧いてきましたが、ユーザー会で運用の検討をしていただいています。広大霞LabSecretaryは少しずつ使い勝手が良くなるように整備を進め、研究費の公募情報や学際的研究推進部会でのセミナーのリスト化について追加されています。疾患バイオマテリアル・レポジトリーシステムは昨年度末にピッキング機能付き−20℃冷凍庫が導入されましたが、それ以外について、当面は各研究室が保有する検体をバーチャルにつないで運用することを想定しています。将来的には、対応可能な検体を中央管理として、霞地区のみならずバイオバンクとして多くの研究者に利用してもらうことを目指しています。

また、医系科学研究科では教職員及び大学院生に研究倫理教育を受講していただくことで、倫理教育の強化に努めています。大学院生にはBasic及びAdvancedコースについて、修了時までに受講することを徹底していますので、各研究室において構成員へのご指導をお願いします。

今年度の霞地区での大きなニュースは、放射線影響研究所の移転候補先が霞キャンパスに一本化したことでしょう。これまでは研究室が個別のルートを利用して共同研究をしてきましたが、移転が実現し、原爆放射線医科学研究所はもちろん、本研究科を含めた組織ぐるみで共同研究が進められるようになることを期待します。

また、来年度から新たに全研究科横断的な「スマートソサイエティ実践科学研究院」が開設します。霞キャンパスからは博士課程前期2名、博士課程後期1名の入学定員枠を拠出します。他の研究領域との連携を通じて国際医療保健について研究する領域で、スマート社会の実現に寄与する研究テーマを取り扱うことになります。

東広島キャンパスとの連携は大きな課題ですが、10月5日に学際的研究推進部会 脳・神経科学グループと統合生命科学研究科との合同セミナーを開催しました。今回は東広島から霞キャンパスに来ていただきましたが、今後は相互に訪問する予定です。これをきっかけにして、それ以外の分野でも連携が進むことを期待しています。

最後に、ロシアのウクライナへの侵攻は驚愕するばかりですが、ウクライナの尊厳が保たれる形での和平が到来することを祈っています。この侵攻に伴い世界的に燃料費が高騰し、霞キャンパスの電気・ガス使用料金も昨年度と比較して大幅に増加しています。適切な省エネルギーにご協力をお願い申し上げます。

広島大学